



ほうさ 第5号

1981年1月
名古屋市蓬左文庫
Nagoyashi Hōsabunko

屢示屋 よ り

1.10(土)～3.29(日)

尾崎久弥コレクション展

本コレクションは、名古屋の国文学者で、いわゆる江戸軟派文学の先駆者であると同時に、江戸版本・浮世絵等のコレクターとしても知られる故尾崎久弥氏（1890—1972）が半生を費やして収集したもので、総数およそ1万5千点に及ぶが、氏の死後、遺族より本市に贈られた（昭和47年）。その中心をなしているのは、江戸文学に関する木版本4千余点と、歌川派ならびに溪斎英泉を主とする後期浮世絵約2,700枚とであるが、その他、明治以降の活版本や雑誌類などにも、現在では入手しがたくなっているものを多く含み、全体として、質・量ともにすぐれたコレクションを形成している。この内、江戸版本や浮世絵については、蓬左文庫はもとより、名古屋城や名古屋市博物館における展示会でたびたび紹介され、最近では福井県や東京都でも展示会が催されるなど、その利用価値も次第に高まりつつあるが、今回は今まで紹介する機会の少なかった収集品や、尾崎氏個人の著作活動、交遊関係を示す資料をも加えて、その全貌を紹介しようとするものである。

〔尾崎久弥氏の蔵書印〕

なお、本コレクションは、蓬左文庫で保管し、整理を進めているが、現在までに目録を第三集まで刊行した。これらには、江戸版本・明治以降の活版本・複製本・雑誌類など、本コレクションにおける書籍はおおむね収録されており、一般の閲覧にも供している。



封醉小史



楓水庫



久弥 蔵

出 品 目 録

I 久弥の収集品

〈江戸版本・写本〉

- 1 秋の夜長物語 寛永19年刊 1冊
- 2 風流連理懋 享保20年刊(八文字屋本) 3冊
- 3 絵本玉藻譚 法橋玉山画 文化2年刊 5巻5冊
- 4 きつひむだ枕春乃目覚 艶好作・画 寛政8年写 1冊○
- 5 江戸生艶樺焼 京伝作 北尾政演画 刊 3巻3冊●
- 6 はいかい一字たいじぐち〔くま一正とらうな〕 羽林冲信 江戸中期刊 1冊
- 7 当世気どり草 金々先生 安永2年刊 1冊○
- 8 寸南破良意 南鐐堂一片 刊(安永4年序) 1冊○
- 9 柳巷詠言 喜三二作 恋川春町画 天明3年刊 1冊●
- 10 大通どらの巻〔大通遊里極秘伝〕 下界隠士 刊(天明5年序) 1冊●
- 11 古契三唱 山東京伝作 北尾政演画 刊(天明7年序) 1冊○
- 12 (手段詰物)娼妓絹簾 山東京伝 寛政3年刊 1冊●
- 13 青楼夜話色講釈 十返舎一九 刊(寛政13年序) 1冊○
- 14 野良の王子 十偏舎作 栄水画 刊(寛政13年序) 1冊●
- 15 潮来婦志 式亭三馬作 溪斎画 刊 6巻6冊
- 16 (譚話)浮世風呂 巻下 式亭三馬 刊 1冊
- 17 名護屋見物四編之綴足・同 後編 東花(冬瓜)元成 文化12・13年刊 4冊○
- 18 郷中知多栗毛 南瓜末成 写(天保14年序) 2巻2冊●
- 19 (人生栄枯)松の操物談〔貞婦錦繡全伝〕前編 一筆庵可候作 溪斎英泉画 文政4年刊 3巻3冊○
- 20 春雨日記 為永春水作 溪斎英泉画 天保年間刊 3編9冊●
- 21 大寄噺の尻馬 長谷川貞信画 刊 3編3冊
- 22 (八百屋於七伝)松梅竹取談 山東京伝作 国貞画 文化6年刊 3編3冊○
- 23 (清川文七)梅桜振袖日記 柳亭種彦作 国丸画 文化9年刊 1冊●
- 24 新編金瓶梅 馬琴作 国安・国貞・豊国画 文政14-弘化4年刊 10集10冊○
- 25 枕琴夢之通路 笠亭仙果作 種彦校 歌川貞秀画 天保6年刊 3巻3冊○
- 26 児雷也豪傑譚 美図垣笑顔作 香蝶楼国貞等画 天保10-元治2年刊 42編21冊●
- 27 松飾徳若譚 仮名垣魯文作・錦朝楼芳虎画 明治4年刊 4編8冊●
- 28 風流よしこの図会・同 二編 弘化3年刊 2冊
- 29 狂歌三河名勝図会 百樹園寛持著 高雅画 安政5年刊 1冊
- 30 浮世画譜 溪斎義信・広重画 刊 3編3冊
- 31 雨夜三杯機嫌 刊(元禄6年序) 3巻2冊○
- 32 明和伎鑑 淡海子著 明和6年刊 1冊●
- 33 勾欄(戯場)番附 小寺玉晃編 写 1冊
- 34 絵本諸芸錦 鈴木春信画 刊(宝暦13年序) 3冊
- 35 けいせいふたつさかつき 刊 1冊

〈浮世絵〉

- 1 東海道五拾三次之内 吉原 広重画(保永堂版) 1枚○
- 2 「廓の明け暮れ」より 三代豊国画(肉筆下絵) 3枚続
- 3 〔にわか雨〕 国貞画 1枚
- 4 北国八景之内 うらたんぼ暮雪 英泉画 1枚●
- 5 「名古屋名所団扇絵集」より 森玉遷画 2枚

〈その他〉

- 1 帝国文庫 博文館 明治27-大正3年刊 50冊
- 2 稀書複製会叢書 大正7-昭和15年刊 280種(3種欠)
- 3 〔浮世絵展覧会目録・同売立目録〕 268種の内
- 4 (雑誌)あかほんや 1-4 阿伽梵書屋 昭和5・6年刊 4冊
- 5 (〃)浮世絵 1-55(揃) 浮世絵社 大正4-9年刊 55冊
- 6 (〃)文芸倶楽部 博文館 明治28-大正2年刊 6冊
- 7 (〃)団々珍聞(マルマルチンブン) 584 団々社 明治20年刊 1冊
- 8 (〃)やなぎ樽研究 1-105(揃) 柳書刊行会(岐阜)大正14-昭和9年刊 105冊
- 9 (〃)ROMAJI ZASSHI(ローマ字雑誌) ローマ字会 明治18年刊 1部
- 10 伊藤圭介書(至楽……) 1幅

II 久弥の著書と交遊関係

〈久弥の編著書と蔵書印〉

- 1 江戸文学関係 「江戸軟派叢書」 (大正13-15年刊、5冊)等 8種
- 2 浮世絵関係 「浮世絵と廃類派」 (大正14年刊、1冊)等 5種
- 3 久弥企画展覧会記念誌 「江戸時代花見風俗展覧会記念誌」 (昭和5年刊、1冊)等 3種
- 4 随筆・短歌 「夢を描く」 (大正2年刊、1冊)等 5種
- 5 雑誌 「江戸軟派研究」 (大正11-昭和3年刊、72冊)等 2種
- 6 蔵書印 12顆

〈久弥の交遊関係〉

- 1 短歌雑誌「八少女」の周辺 「八少女」(明治41-44年刊、20冊)等 6種
- 2 近代文野の短冊、歌軸 与謝野晶子(1878-1942)・小酒井不木 (1890-1929)等
- 3 書簡 石川啄木(1886-1912)・坪内逍遙(1859-1935)等
- 4 尾崎久弥氏還暦祝賀寄書 1幅

期間中展示替を行ないます。

(○印… $\frac{1}{10} \sim \frac{2}{10}$
●印… $\frac{2}{21} \sim \frac{3}{20}$)

尾崎氏は愛知県立第一中学校在学中（明治40年前後）、早くも新聞・雑誌等に短歌や文章を発表して文才を顕したが、とくに短歌には熱心で楓水と号し、若山牧水らと親交を結び、与謝野寛・晶子夫妻らの知遇をも得て、名古屋最初の短歌同人誌「八少女」を創刊したのが、若冠十八歳であった。尾崎家は、団扇絵等の製作を業とし、久弥氏が中学四年のとき、父君は病死されたが、恩師や篤志家の援助によって、国学院大学に進学された。しかし、当時の国学院には、江戸文学の講座などはなく、氏はほとんど独学

をもって、みずからの進路を開拓されたわけである。大学卒業後の氏は、もっぱら国語科の教員として、愛知県下、主として名古屋市内の旧制中等学校に勤務し、母校愛知一中の教壇にも立たれた。のちには名古屋商科大学や東邦学園短期大学の教授に就任されたが、この間、短歌とは次第に離れて学究生活に入り、他方、収集や著述の量も多きを加えていった。昭和34年以降、晩年にいたるまでは、「名古屋叢書」編集委員や名古屋市文化財調査委員も歴任され、本市の文化行政にも大きく貢献された。

コ ラ ム

蓬左文庫の蔵書印

その4. 「御記録所図書之記」印記
「御日記所」

織 茂 三 郎

1800)に置かれ、留書頭以下、教名の留書役によって、歴代藩主の事蹟などの編集に従ったが、安政2年(1855)廃止され、その後は、単に、御日記所懸りとして留書頭並1名がのこされた。尾張藩の公式の記録には「事蹟録」「御記録」「御日記」「御日記頭書」などがあるが、これらはいずれも、御記録所ないし御日記所のしごとである。したがって、それらの編集用に、いろいろな資料が役所内に収蔵され、それぞれの蔵書印が捺されていた。(前者は長方形型印で51×34mm、後者は楕円形で39×31mm)なお、記録所の印には、いまひとつ「尾藩御記録所図書記」(38×37mm)というのものもある。

「御記録所図書之記」と「御日記所」印記

御記録所は、その名の通り、尾張藩(家)の記録をつかさどる役所で、寛文年間(1661~1672)、留書奉行はじめ、留書役20名、留書並16名という相当数の職員が任命されたが、元禄13年(1700)、災害などによる極度の財政難のために、一時、廃止された。御日記所は寛政年間(1789~



「御記録所図書之記」印



「御日記所」印

(おりも さぶろう・蓬左文庫調査研究員)

蓬左文庫名品展について

かねて予告の通り、「蓬左文庫名品展」が名古屋市博物館で開かれている。(12月9日～56年2月1日)。
現在の文庫にも、展示室があることはあるが、手ぜまな上に設備も不十分で、貴重な資料を大量に出品しがたく、また、展示効果も低いというのが実情である。今回は、本文庫の市有公開満30年を記念する特別展だけに、出品物は質・量ともに空前の規模で、内容にふさわしい檜舞台を踏む機会がえられたことになる。

従来は、一定のテーマにもとづく部分的な展示が多く、それなりに小ぢんまりとまとまっていたが、出品数は50種が限度で、それも、小さなガラス・ケースに、すしづめに詰めこまざるをえなかった。いま開催中の名品展は総合的な展示で、和書・漢籍・朝鮮本・尾張資料・蘭学資料・古絵図など、それぞれの分野における代表的なものおよそ120種(重文7件154点をふくむ)を選びさらに財団法人徳川黎明会のご好意により、文庫の創立者徳川義直の画像・書蹟および蔵書印や遺愛の文具類なども加えて、ゆたかなバラエティを示しており、もろもろの出品資料は、広くて設備のよい会場にあって、ゆったりと各々の存在を誇り顔にみえる。とくに、初めて全容をお目にかけの一対の超大型図「名古屋城二之丸庭園図」などは、博物館ならではの壮観であろう。河内本「源氏物語」を中心とする「源氏コーナー」や奈良絵本群、江戸初期と末期と対照的な日本全図、「張州府志」以下の地誌類、尾張洋学館旧蔵の蘭学資料群なども異彩を放っている。とにかく敬遠されがちな漢籍類も、意外になじみ深いものが多く、「友あり、遠方より来たる、また楽しからずや」の感が浅くない。

古書の展示には、美術品のような華やかさはとぼしい。しかし、以前に開催したある展示会するとき、数人の女子高校生が、じつに熱心に見てくれたことがある。かの女たちは、場内を何度も行きつもどりつ、あきることを知らない。こころみに感想を問うと、口をそろえて「日本の有名な古典類がこのような立派なかたちで、何百年も伝えられてきたことに感動した。こんな機会はまたとなさそうなので、心ゆくまで見ておきたい」と答え、閉場の時刻がくると、各自、数冊の図録を買いこんで、名残り惜しげに去っていった。これに似たような例は、2、3にとどまらないのである。



重文「太平聖恵方」

「尾州名古屋御城下之図」解説

名古屋城下の図のうち、江戸中期の終りごろのもので、南北128.5cm、東西123.0cmの中型図。赤・黄・青などの色彩が鮮明で、保存度も良好であるが、文字のカスレがところどころにみえるのが惜しまれる。色彩は、赤が道路や広場、黄が町屋、淡紅は寺社、青はもちろん堀・川・池などの水面を示しているが、武家屋敷は白地に名が記入されている。

本図は、尾張藩小納戸役所（小納戸は藩主の側近にあって、さまざまな用務にしたがう役で、小納戸頭取の下に数十名の下役がいた）備え付けのものだけに、明細かつ正確で、この当時の標準的な城下図といえる。

本図の特色は、城下のみならず、その周辺部をも描きこんでいる点で、北は庄内川、西は中村、南は御器所、東は矢田から鍋屋上野・丸山・川名村の丘陵地帯あたりにまで及び、庄内川には枇杷島橋が東西に分かれているところ、あるいは飯田街道が東南に長く伸びている状態まで明らかである。なお、周辺部の東から南へかけて今池・大池・辰ノ口池などがあり、城下の布池とともに、現在、池の字の付く地名には、実際にそれが存在していたことがわかる。

既刊「尾府名古屋図」と比較するのには、約60年の年代差があり、このころになると、名古屋城内は三の丸以外は全く空白となっている。ただ、二の丸北方の御深井庭に、多くの島を浮かべた大池が描かれており、これがいわゆる「蓮池」で、明治以後は第三師団の練兵場として埋め立てられたが、寛永の昔、三代将軍が名古屋城を訪れたとき、この池を中心とした御深井庭の風致に感嘆し、江戸城へ帰ったのち、これを模範として今の吹上御苑の原形を作らせたといわれる。

この図の作成年代は、初め明和～安永年間(1764～80)と若干の幅を与えたが、その後、調査を進めた結果、「士林浜廻」及び「稿本藩士名寄」に、三の丸に屋敷をもつ津田新十郎が明和5年に友吉から新十郎と改名、また奥田綾之助(貼紙)の下に奥田右門(安永元年死去)、さらに遠山市九郎(貼紙)の下に遠山伊豆守(明和6年12月任官、同8年6月死去)などが見えることが判明したので、ほぼ、明和7年(1770)～安永元年(1772)の間と推定することができる。



尾州名古屋御城下之図〈部分・建中寺付近〉

出版物一覧

名古屋市蓬左文庫漢籍分類目録(S.50年刊)	3,500円	善本解題図録第一集(S.55年再版)	300円
名古屋市蓬左文庫国書分類目録(S.51年刊)	4,000円	同 第二集(S.55年再版)	300円
名古屋市蓬左文庫古文書古絵図目録(S.51年刊)	2,500円	同 第三集(S.55年再版)	300円
尾崎久弥コレクション目録第一集(S.52年刊)	1,500円	蓬左文庫重要文化財図録(S.52年刊)	200円
同 第二集(S.54年刊)	1,500円	日本の古典〈蓬左文庫図録〉(S.52年刊)	200円
同 第三集(S.55年刊)	1,500円	蓬左文庫・源氏物語図録(S.53年刊)	300円
名古屋叢書(正編)索引・総目録(S.53年刊)	2,000円	蓬左文庫所蔵古地図複製 No.1 「尾府名古屋図」(S.55年刊)	1,800円
名古屋叢書続編 索引(S.47年刊)	700円	同 No.2 「尾州名古屋御城下之図」(S.56年刊)	1,800円
名古屋叢書続編総目録(S.44年刊)	400円		

★以上の出版物は、本文庫事務室において頒布しています。郵送希望の方は郵送料が必要です、お問い合わせ下さい。電話 (052)935-2173

★「善本解題図録」の再版ができました。これは本文庫の善本(貴重図書)について解説を加えたものですが、第一集には駿河御譲本の内から和書三十種、第二集には同じく漢籍三十七種、第三集には日本古代の古典三十種が収録されています。

★本文庫所蔵の古地図の内、名古屋城下のものの複製を作成頒布しています。あわせてご利用下さい。

利用案内

▷開館時間 午前9時30分～午後5時

▷休館日 毎月曜日・第3金曜日(館内整理日)

祝日 (日曜に重なる場合は日曜開館、月・火休館)
月曜 月・火休館

▷閲覧 館内に限り、館外貸し出しはいたしません
(閲覧料) 普通図書 無料
重要図書 有料(1部100円)

▷展示 常時蔵書の一部を展示
(特別展を除き入場無料)

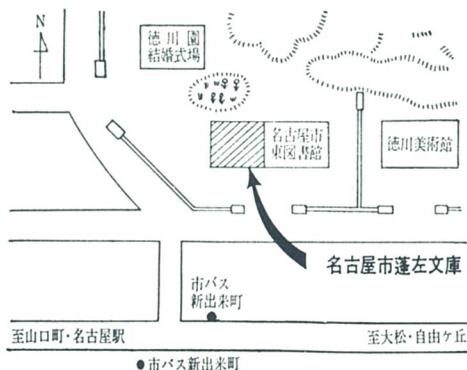
▷複写サービス 普通図書のうち保存上影響のないものについて複写サービスを行ないます。その他、マイクロフィルムの利用、写真撮影等の申請を受付けますので、ご来庫の上、ご相談下さい。

名古屋市蓬左文庫

〒461 名古屋市東区徳川町2-27

☎(052)935-2173

(市バス 新出来町 北 100m)
山口町 東 500m)



「蓬左」第5号 ☆昭和56年1月10日発行 ☆編集・発行：名古屋市蓬左文庫(東区徳川町2-27)
☆無料 ☆不定期刊行 ☆印刷：大同印刷(東区泉2-3-18)